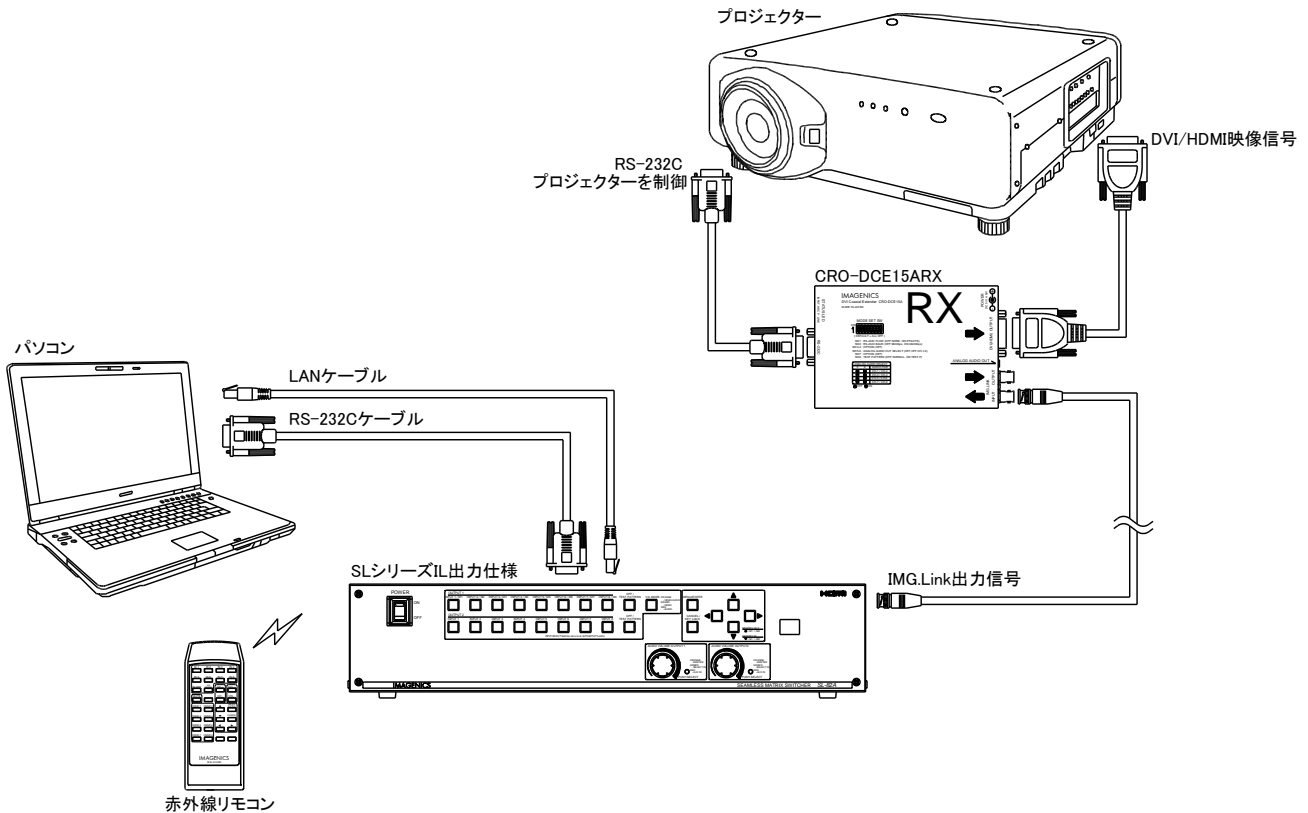


[IMG.Link 出力信号に RS-232C シリアル通信を重畳する]

IMG.Link 信号の受信器に弊社製 CRO-DCE15ARX を使用すると、本機にあらかじめ登録しておいた RS-232C 制御コマンドを IMG.Link 信号に重畳して伝送し、離れたプロジェクターなどを制御することができます。



まず、あらかじめパソコンからブラウザを使用してプロジェクターなどの制御コマンドを本機に登録しておきます。コマンド登録ページは、トップページの下部にある「IMG.Link 送信コマンド登録ページへ」のリンクから入ってください。

制御コマンドは 1 コマンド 24 バイト以下で、8 個まで登録できます。24 バイトで足りない場合は複数のコマンドに分割登録して、つづけてコマンド送信することで対応してください。

コマンド登録時の記述方法は、制御コード文字の場合 16 進数 2 桁を「%xx」の形で記述してください。

たとえば CR (キャリッジリターン) は%0D、STX (テキスト開始) は%02 となります。

その他の通常の英数字文字は、そのまま記述してください。ただし%を登録したい場合は%25 となります。

16 進数表記した ASCII コード表は取扱説明書を参照してください。

工場出荷時には、下記の 8 種類のコマンドが登録されています。

コマンド	ブラウザ上の表示	16 進数表記
1	%02PON%03	02h 50h 4Fh 4Eh 03h
2	%02POF%03	02h 50h 4Fh 46h 03h
3	%A9%17.%00%00%00?%9A	A9h 17h 2Eh 00h 00h 00h 3Fh 9Ah
4	%A9%17/%00%00%00?%9A	A9h 17h 2Fh 00h 00h 00h 3Fh 9Ah
5	POWER 1%0D	50h 4Fh 57h 52h 20h 20h 20h 31h 0Dh
6	POWER 0%0D	50h 4Fh 57h 52h 20h 20h 20h 30h 0Dh
7	%010A0A0C%02C203D60001%03s%0D	01h 30h 41h 30h 41h 30h 43h 02h 43h 32h 30h 33h 44h 36h 30h 30h 30h 31h 03h 73h 0Dh
8	%010A0A0C%02C203D60004%03v%0D	01h 30h 41h 30h 41h 30h 43h 02h 43h 32h 30h 33h 44h 36h 30h 30h 30h 34h 03h 76h 0Dh

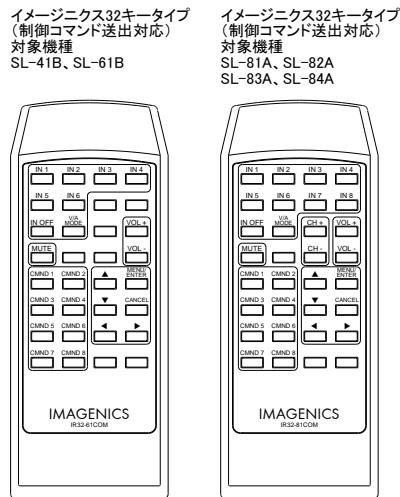
本機に登録した制御コマンドを IMG.Link 信号へ重畳して送信するには、以下の点にご留意ください。

○IMG.Link 出力へコマンドを送出するときは、事前に受信器との間でリンクが成立していることを確認してください。リンク不成立時に送信されたコマンドはキャンセルされます。

○プロジェクターなどと IMG.Link 受信器との間の RS-232C 通信プロトコルは IMG.Link 受信器 (CRO-DCE15ARX) 側で設定してください。また、CRO-DCE15ARX の取扱説明書も合わせてお読みください。

実際に IMG.Link へコマンド送信するには以下の方法があります。

1. 制御コマンド送信機能対応の赤外線リモコン（別売り）を使用する



CMND 1~8 ボタンで登録したコマンド 1~8 が送信されます。

2. パソコンなどの制御機器から本機に対して、「IMG.Link 出力へ制御コマンドを送出」コマンドを送信する

本機へのコマンドは RS-232C または LAN からのシリアル通信による外部制御を使用します。

コマンド	動作内容	チャンネル指定	パラメーターの設定、説明、使用例など
IMG.Link 出力へ制御コマンドを送出			
AP	登録した制御コマンドの送出	1~4 で出力チャンネルを指定	0001~0008 で登録コマンドを指定する [使用例] IMG.Link 出力 1 にコマンド 2 を送信する #1AP0002[CR]
IMG.Link 受信器とのリンク状態を確認			
bN	IMG.Link 受信器とのリンク有効性を問い合わせる	1~4 で出力チャンネルを指定	データリードコマンドのパラメーターは 0000 [使用例] IMG.Link 出力 2 の受信器とリンクが成立しているか確認 #2bN0000[CR] [辺値例] #2bN0003[CR] 辺値が 0000 の時はリンク無し、0001 の時は出力 A-ch 側とリンクあり、0002 の時は出力 B-ch 側とリンクあり、0003 の時は A/B 両側とリンクあり

3. フロントパネルのスイッチ操作によって IMG.Link ヘコマンドを送出する

メニュー操作をしていない状態(メニュー関連スイッチがすべて消灯している状態)で十字キーの左スイッチを約 1 秒押し続けると、出力 1 にコマンド 1 を、出力 2 にコマンド 3 を、出力 3 にコマンド 5 を、出力 4 にコマンド 7 をそれぞれ送じます。同様に右スイッチを約 1 秒押し続けると、出力 1 にコマンド 2 を、出力 2 にコマンド 4 を、出力 3 にコマンド 6 を、出力 4 にコマンド 8 をそれぞれ送じます。

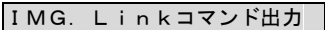
4. ブラウザを使用して IMG.Link ヘコマンドを送出する

トップページの下部に「IMG.Link でシリアルコマンド送信」ページへのリンクがあります。ここから、各出力チャンネルにコマンド送信ボタンでコマンドを送出することができます。

5. 本機の電源起動時に自動で IMG.Link ヘコマンドを送出するよう設定する

「外部制御の設定」メニュー内にある「IMG.Link コマンド出力」を選択します。

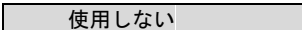
```

外部制御の設定
RS-232Cボーレート
ネットワークの設定
赤外線リモコンの選択


```

「IMG.Link コマンド出力機能」メニューから出力チャンネルごとに、電源起動時のコマンド発行機能の有効/無効を選択・設定できます。

```

出力 1 : 電源起動時のコマンド自動送信

▲▼で選択、ENTERで決定

```

コマンド自動送信を有効にすると、本機の電源起動後に IMG.Link 受信器とのリンクが最初に成立した時、設定したコマンドが送られます。

初期設定は「使用しない」です。

また、本機に対して下記のシリアル通信コマンドを使用すると IMG.Link へのコマンド自動送信が完了したかを確認することができます。

コマンド	動作内容	チャンネル指定	パラメーターの設定、説明、使用例など
電源起動時の IMG.Link 出力への自動コマンド送完了問い合わせ			
cN	自動コマンド送完了問い合わせ	1~4 で出力チャンネルを指定	データリードコマンドのパラメーターは 0000 戻り値のパラメーター 0000 = 自動送出機能未使用、 0001 = 送出待ち状態、0002 = 送出完了 [使用例] 出力 1 のコマンド自動送出は完了したか? #1cN0000[CR] 辺値例 #1cN0002[CR] = 送出完了

6. パラレルリモートから IMG.Link ヘコマンドを送出する

パラレルリモートから IMG.Link ヘコマンドを送出する機能は、音量制御入力ピンとの切り替えとなります。「外部制御の設定」メニュー内にある「IMG.Link コマンド出力」を選択します。

外部制御の設定
RS-232Cボーレート
ネットワークの設定
赤外線リモコンの選択
IMG.Linkコマンド出力

「パラレル接点機能切り替え」メニューから音量制御ピンと IMG.Link コマンド送出ピンとの機能切り替えが設定できます。

パラレル接点機能切り替え
音量制御用ピンとして使用
IMG.Linkコマンド送出で使用

初期設定は「音量制御用ピンとして使用」です。

ピン番号	信号名	入出力	ピン番号	信号名	入出力
17	マスター音量レベルアップ /IMG.Link ヘコマンド 1 送出	入力	42	マスター音量レベルダウン /IMG.Link ヘコマンド 2 送出	入力
18	選択入力音量レベルアップ /IMG.Link ヘコマンド 3 送出	入力	43	選択入力音量レベルダウン /IMG.Link ヘコマンド 4 送出	入力
19	AUX 入力音量レベルアップ /IMG.Link ヘコマンド 5 送出	入力	44	AUX 入力音量レベルダウン /IMG.Link ヘコマンド 6 送出	入力

コマンド送出制御のタイミング

